



たねまく

T A N E M A K U

地域をつくる
“17”の
エピソード





そんな想いをもち始めた人 そんな想いをカタチにしたい人

そんな想いを持って活動している人を応援する
多賀城市市民活動サポートセンター（たがさぼ）。

2008年6月のオープンから毎日たくさんの方々にご利用いただいています。

この冊子では、この5年間でたがさぼが会ってきた、
多賀城のまちを元気にする取り組みの数々をご紹介します。

みなさんの活動とたがさぼの関わりを中心にお話を伺いました。

たがさぼってどんな場所なの？

そんな疑問にもお答えしながら、多賀城のまちで起こった小さな変化をお伝えします。

想いは地域をつくるたねのようなもの。

あなたの中にある想い（たね）を
思い浮かべながらお読みください。



もくじ

「想いをカタチに」INTERVIEW

P03-07



P04

INTERVIEW-01

「絵本が好き」をきっかけに

和久 由紀恵さん



P05

INTERVIEW-02

自分の想いを相談できる場所

向坂 洋子さん



P06

INTERVIEW-03

みんなのココロを笑顔にしたい

土生 浩子さん



P07

INTERVIEW-04

「顔の見える町内会」をめざして

佐藤 亨さん



P07

INTERVIEW-05

夏祭りで、地域を盛り上げる

齋藤 政治さん



P08 たがさぼってこんなところ 1 | 多賀城周辺のイベント情報・団体情報の収集ができます

「活動がひろがる」INTERVIEW

P09-15



P10

INTERVIEW-06

新しいつながりが生まれる場所

吉田 忠彦さん



P11

INTERVIEW-07

多賀城のまちを元気にしたい

加藤 則博さん



P12

INTERVIEW-08

事務局強化がみんなの笑顔につながった

松本 厚子さん 赤間 由美さん



P13

INTERVIEW-09

あり続けること 発信し続けること

AA 多賀城グループ



P14

INTERVIEW-10

仙塩地区に活動を広げるきっかけに

土佐 昭一郎さん



P15

INTERVIEW-11

同じ地域づくりの拠点としてお互いに高め合いたい

千葉 和義さん

P16 たがさぼってこんなところ 2 | 「自分で何かやってみたい」「活動のお悩みを解決したい」地域活動に関する相談ができます

「つながる」INTERVIEW

P17-22



P18

INTERVIEW-12

仕事を通して地域を変えていきたい

北 尚登さん



P19

INTERVIEW-13

誰もが「使いやすい」「入りやすい」場所へ

高橋 壮さん



P20

INTERVIEW-14

地域の力を仮設住宅へつなぐ

伊里山 いさ子さん



P20

INTERVIEW-15

少しでも心の支えに

熱海 とも子さん



P21

INTERVIEW-16

行政との橋渡しが被災者支援につながった

佐野 哲史さん



P22

INTERVIEW-17

「想い」を「カタチ」にする応援

高橋 和恵さん

P23 たがさぼってこんなところ 3 | イベントに参加してさまざまな人や情報に出会うことができます

たがさぼのこれまで・これから

P24-25



P24

丘の上のたがさぼ

小野史典



P25

みんなで地域づくりの種をまき 地域づくりの芽を育む

桃生和成

想いを
カタチに





-TITLE-

「絵本が好き」をきっかけに

わくわく文庫 | 和久 由紀恵さん

絵本の力

2ヵ月に1回、岩切駅前のカフェを会場にして、5人限定でお気に入りの絵本一冊を持ち寄り紹介しあうイベント「waku waku カフェ」を開いています。大人が平日の夜にほっと一息つきながら絵本を読み聞かせする楽しさ、聞く楽しさを味わってもらいたいなという思いから始めました。

絵本の力に気づかされたのは保育士の仕事についてからです。「しーん」「もこっ」と谷川俊太郎作『もこもこもこ』の読み聞かせが始まると、子どもたちはたちまち絵本の世界に引き込まれます。そのとき「絵本ってすごいな」と思いました。

始まりはふとした出会い

活動のきっかけは、仙台のイベントでたがさぼスタッフにお会いしたことです。多賀城での活動を紹介され「何かを始めるのは大変だけれど、今あるイベントに参加

して人とつながり、そこから始めるというの也有りですよ。」と言われて、「あ、そうか」と思っているイベントに参加するようになりました。そこから活動やつながりが広がっていった感じですね。

知り合いになった女性から「おもしろいところに行っておもしろくなるのは当たり前じゃん!」と言われて、参加するだけでなく自分も楽しいことをやろうと一歩を踏み出しました。やるなら好きな絵本のことと決めていたので、読み聞かせのイベントを始めたいとスタッフに相談したら「じゃあ日にちを決めてどんどんやってみて」という感じで始めました。

ふりかえりしながら息長く

途中々々でたがさぼスタッフからアドバイスをもらい「ああ、そういうやり方もあるんだ」と気づかされることが多く、「いま私が必要としていることでなくても、何か新しいものにつながるかも知れ

ない」と思って講座やイベントに参加するようにしています。

課題として、お母さんたちが子どもを置いて参加しにくいことや、人数限定のため新しい参加者が増やせない悩みも出てきました。1年をすぎて、もう一度私がやりたかったことは何かを考えたいと思っています。

最終的には70歳位になった時に家庭文庫を開いて地域のおばあちゃんになっているのが私の夢です。その時までたがさぼからの応援をよろしくお願いします。



- わくわく文庫 -
和久 由紀恵さん

E-mail : boncourage76@yahoo.co.jp



- TITLE -

自分の想いを相談できる場所

多賀城支え合いの会 | 代表 向坂 洋子さん

介護経験の想い

私は2008年10月にたがさぼが主催する『NPO マネジメント講座』への参加をきっかけに、市民活動相談を定期的に受け、多賀城支え合いの会を立ち上げました。参加した講座では、自分の想いをどのように整理して活動につなげていくのかなど、活動の第一歩となる基礎的なことを教えてもらいました。

私自身、高齢になる母の世話を10年くらいしていましたので、身体的・精神的にも疲れていた時期でもあります。新聞やテレビを通して、ご近所の付き合いがあまりない、近くに相談できる人もいないという孤立無縁の社会が取り上げられ、私も自分事のように感じていました。

そんなとき、多賀城に「介護をする人たちを支援する」サービスがあればいいなあと感じていました。悩んでいても解決にはつながらないと思い、勇気を出して、たがさぼへ相談に行きました。いま思うと、その一歩が、多賀城支え合いの会ができ

たきっかけだったんですね。

顔と顔がつながる

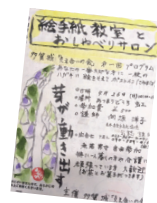
たがさぼに相談して知ったことは、地域にないサービスは自分でつくることができるということです。「私のようなおばあちゃんが活動をねえ…」と思っていましたが、私が想う地域の支え合いを話すと、団体をつくる方法や活動に向けた具体的なアドバイスをしてもらいました。

多賀城支え合いの会では、絵手紙や折り紙、ウォーキングなどの趣味の会、市の出前講座などの勉強会を開き、みんなが楽しみながら気軽に集まれる場をつくって、団体の目的に賛同してくれる仲間を集めていきました。活動を通して気づいたことは、私以外にも介護をする人たちを支える場を必要に感じている人が多いということです。今では30名くらいの方が活動に参加し、互いの顔と顔とがつながることで、地域の支え合いの輪をつくっています。

まずは動いてみる

多賀城には私のように「困った時はお互いさま、助けたり助けられたりできる地域になればいいのになあ」と思う方がいらっしゃるのではないのでしょうか。その想いを1人のものにしないで、たがさぼに相談してみるとよいですよ。きっと何かが見つかります。まずは動いてみましょう。ためらわず行動してみてください。

あたかみのある
手描きチラシ



- 多賀城支え合いの会 -
向坂 洋子さん

「広報多賀城」の「交流広場」にて、定期的に講座・イベントの参加者を募集しています。ぜひ、ご参加ください。



-TITLE-

みんなのココロを笑顔にしたい

ココロのびのび★プラネット | 代表 土生 浩子さん

心を開いて話せる場所を

2013年4月からたがさぼの貸室を利用して、発達障がいや不登校など心に困りごとを抱える中高校生や大人を応援する活動に取り組んでいます。それまで娘の不登校をきっかけにアフタースクールのびのびクラブの会員として、障がいをもつ児童が放課後に学校や家庭を離れて楽しめる場づくりに携わってきました。けれどもそれ以降の年齢になると、改まった相談や勉強のための場所はあっても、心を開いてお話しできる場所が近くにないことに気がつきました。地元でそういう場所があればいいなと思ったことから、「木曜カフェ」など元のクラブの活動も引き継ぎながら新たな団体を立ち上げたのです。会場は、学校から離れた公的施設で夜間も利用できることなどから自然にたがさぼを使うようになりました。

身近なサポート

新しい組織を立ち上げる際には戸

惑いがありましたが、たがさぼスタッフからその都度助言を受けて活動を始めることが出来ました。事務用ブースに入居したことから、定期的に行われる相談会で団体運営や活動についての助言も受けています。入居団体が提出する報告書のまとめは大変でしたが、活動を振り返るためのいい機会になりました。

たがさぼではスタッフに気軽に相談できるので助かります。ほかにもブログでの広報や「かかし作り」などお楽しみイベントでも、いろんな面でお手伝いをいただきました。また紹介された講座に参加したことで多方面の人との繋がりができるなど、人的なネットワークのサポートもしてもらっています。

みんなの力で元気に

活動が続けていく中で、参加者が行ってみようかなと思ったときにいつでも行ける場所があることが大切だと感じています。毎週木曜日に開催しているコミュニティスペース

「ココロのびカフェ」で一人一人にリラックスして過ごせる場を用意してあげたい、というのが私たちの願いです。もう一つの願いは、参加して下さるみなさんが元気になることです。たがさぼの皆さんの一層のアシストを期待しています。



手作りおやつでほっこり



- ココロのびのび★プラネット -
土生 浩子さん

E-mail : kokoro.nobi@gmail.com
ブログ : <http://blog.canpan.info/kokonobi>



-TITLE-

「顔の見える町内会」をめざして

高橋東二区町内会 | 会長 佐藤 亨さん

会長になったときに、地区の出来事を住民の皆さんに知ってもらうことで、自分の住む地区にもっと関心を持ってもらいたいと考え、新聞とブログで情報発信を始めました。

ただ、ブログについてはわからないことも多かったのですが、たがさばに相談しました。何度か足を運んで、

ブログの立ち上げから記事更新の方法や写真の使い方まで、一から教えてもらいました。その他、新聞作成についてアドバイスしてもらったり、講座に参加し情報発信について学んだりもしました。

最近では、ブログの更新や新聞の発行を楽しみにしてくれている方

自治会・町内会の
たがさば活用術- 高橋東二区町内会 -
佐藤 亨さんブログ: <http://thigashi2.exblog.jp/>

INTERVIEW-05



-TITLE-

夏祭りで、地域を盛り上げる

桜木南区町内会 | 会長 齋藤 政治さん

震災から約1年半後の2012年の夏、集会所の完成に合わせて地区の夏祭りを行うことになりました。震災前の盆踊りと違って昼に行うことになったので、イベントの内容をいろいろ考えなければならなかったのですが、なかなかいい案が出ない。その時に、たがさばを紹介されました。

震災後、気持ちが落ち込んでいる人が多かったのですが、祭りを楽しんでもらい喜んでもらえるようにしたいと考えていました。そこで、たがさばスタッフに夏祭りの会議に参加してもらい、主にイベントについて、たがさばの利用団体や関わりのある方から紹介してもらったんです。

自治会・町内会の
たがさば活用術- 桜木南区町内会 -
齋藤 政治さん

も増えてきています。また、地区の行事をブログでも案内したところ参加者が増えたり、元住民の方がブログでこちらの様子を知る、ということもありました。このように、地区に関心を持ち、愛着を持つ人が増えているように感じます。

たがさばに今後期待することとしては、他の町内会にも情報発信に関心がある方がいるので、ぜひそのサポートをしてもらいたいと思います。

夏祭り当日は、地区の人はもちろん、地区外からも仮設住宅に住む方など多くの人が参加しました。祭りもとても盛り上がり、楽しんでもらうとともに、元気になってもらえたと思っています。

2013年も引き続き相談に乗ってもらい、イベントの出演者を数組紹介してもらいました。この年も大いに盛り上がり、参加した方々に喜んでもらえました。今後とも、お手伝いやご提案をお願いしたいと思っています。



多賀城周辺の イベント情報・団体情報 の収集ができます



多賀城周辺で主に市民活動団体が行うイベントのチラシやフリーペーパーなどを自由に持ち帰ることができます。まちづくり、子ども、環境、健康・スポーツ、文化・芸術など、ジャンルごとに掲示してあるので、関心のあるテーマで探すことができます。



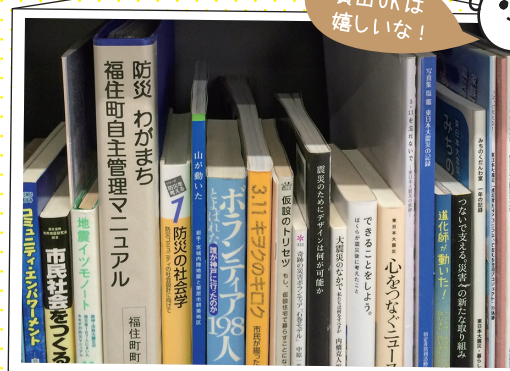
月1回発行の情報誌「tag」では、まちを元気にする活動の情報をお届けしています。

いろんな団体があるんだね



活動先や連携先を探したいという方は、県内外約1,500団体の情報が閲覧できる団体情報ファイルを。団体のパンフレット、チラシ、情報誌、新聞記事などをファイリングしています。

貸出OKは嬉しいな！



まちづくりに関する本や雑誌を集めた図書コーナーもあります。事例を調べたり、活動のアイデアやヒントが見つかったり、すぐに活用できるノウハウが得られたり。貸出もしています。

ホームページでは、団体情報の検索やイベントチラシの一部を見ることができます。

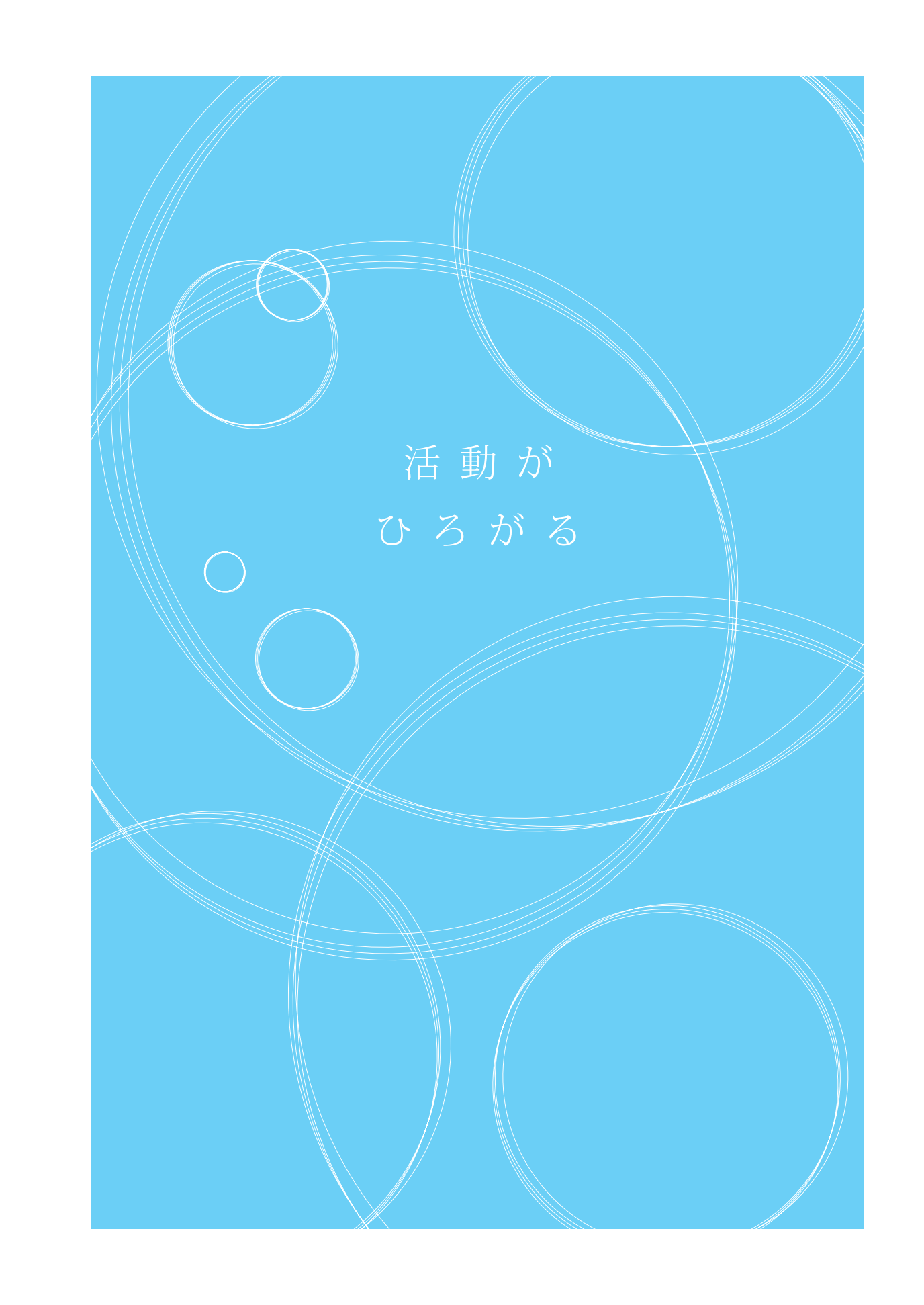
<http://www.tagasapo.org/>

スタッフからの
ひとつ！

活動の第一歩は情報収集から！
気になるイベントを見つけたら参加してみましょ。お探しの情報がありましたら、スタッフまでお気軽にお尋ねください。



スタッフ:くした

The background is a solid light blue color. It is decorated with several white circles of varying sizes. Some of these circles are composed of multiple concentric lines, creating a sense of depth or motion. The circles are scattered across the page, with some overlapping each other. The overall aesthetic is clean, modern, and minimalist.

活動が
ひろがる



-TITLE-

新しいつながりが生まれる場所

劇団ポトフ／史都多賀城万葉まつり実行委員会 | 吉田 忠彦さん

たがさぼへの想い

私は、たがさぼ開館前から市民活動を行っていたこともあり、市民や利用者の視点から、たがさぼの設置について考える「多賀城市市民活動サポートセンター設立検討委員会」のメンバーの一人でした。

たがさぼを設置するにあたり、私達が期待していたことは、大きく分けて「市民活動の情報拠点であること」「相談がしやすい開かれた場所であること」の2点でした。利用者がゆっくり座って相談できる窓口のかたちも、市民活動は人と人とがつながり合って作り上げていくものなので、職員と利用者の間にも壁があってはいけないという想いから生まれたものです。

人に出会える、つながる場

私も利用者として施設を使う立場となりましたが、当初思い描いていたイメージと割と近いように感じています。

私は劇団ポトフと史都多賀城万

葉まつり実行委員会という2団体で活動しているのですが、チラシの設置や印刷機などが使えることで、情報発信、事務作業の面で助かっています。また、たがさぼでは、同じ地域で活動している人に出会えることが大きな魅力です。

実は活動者は、自分の活動以外に関心を持っていないことも多いので、団体同士をつないでくれる場所があるのはいいですね。以前、たがさぼで行われたイベントで、参加者の方から団体に対するアドバイスをいただいたことがありました。自分の活動を客観的に見ることはできないので、とても参考になりました。

もっともっと発信を

これからのたがさぼに期待することは、今まで以上の情報発信です。また「何かをはじめたい」という人が既存の団体に入ることは、とても勇気がいることです。

たがさぼが団体や人とのつなぎ

役であることも、どんどん伝えていってほしいと思います。これからも、ここに来ることで新しいつながりが生まれる、そんな場所であってほしいですね。



劇団ポトフの公演はアットホームな雰囲気



- 劇団ポトフ -
- 史都多賀城万葉まつり実行委員会 -

吉田 忠彦さん

TEL : 090-1378-3608 (吉田さん)
HP (劇団ポトフ) : <http://potofu.com/>



-TITLE-

多賀城のまちを元気にしたい

T・A・P多賀城 | 事務局長 加藤 則博さん

つながりが生まれて広がる

たがさぼができる3年ほど前から活動を始めていました。当初は団体の事務所がなく不便を感じていたため、たがさぼが開館すると同時に事務用ブースを活用させていただきました。その後もミーティングやイベントの準備などで会議室を定期的に使用しています。

T・A・P多賀城は閑散としている多賀城駅前がかつてのような賑わいを取り戻せるよう、自分たちの手で多賀城のまちを元気にしたいという思いで活動しています。

そのひとつが、毎年冬に多賀城駅前で開催している“悠久の詩都の灯り”(ゆうきゅうのまちのあかり)というイベントです。そのイルミネーションの飾りつけには、学生やたがさぼスタッフをはじめ市民がボランティアで参加してくれています。また、多賀城のご当地ヒーロー「タガレンジャー」に会場を盛り上げてもらったり、「ふ

うどばんく東北 AGAIN」にフードドライブのブースを設けてもらったり、たがさぼからはイベントに出店する団体を紹介していただくなどさまざまな形で他団体とつながる機会を作ってもらっています。実は、T・A・P多賀城の現事務局次長も、たがさぼから紹介されてメンバーになったんです。

市民主体で参加型に

まちづくりへの市民全体の意識は以前とあまり変わっていないように見えますが、思いを持った市民の方は少しずつ増えていて、その方たちの意識は大きく変化してきていると思います。たがさぼには、もっと市民活動に関心を持つ人を増やしてほしいですね。

2015年の秋には、多賀城駅北口に新しい図書館や商業施設がオープンする予定なので、それに合わせた新規事業として多賀城駅前で一日楽しく過ごせるような、

市民主体の参加型のイベントも考えています。多賀城をもっと好きになってもらえる、市民意識を高められるようないろいろな事業を仕掛けていきたいですね。



市民の思いを集めるしなげも



-T・A・P多賀城-

加藤 則博さん

TEL : 090-2368-4318 (加藤さん)
E-mail : norihiro@katotetsu.co.jp



-TITLE-

事務局強化がみんなの笑顔につながった

NPO 法人 健康応援わくわく元気ネット | 松本 厚子さん 赤間 由美さん

アドバイスは即実践

2004年にNPO法人化し、健康・仲間・地域づくりをサポートする活動を始めました。「広報多賀城」でたがさば開館と、事務用ブース入居団体募集を知りました。それまではいろいろな公共施設を利用していましたが、事務局担当メンバーが集まる拠点としてたがさばを利用することになったのです。

法人化して4年目。団体内で物事を決めるのに時間がかかったり、会計担当メンバーの負担が大きくなったりと、団体運営に関して悩んでいた時期でもありました。ブース入居後は半年に一度たがさばスタッフに運営の相談にのってもらう機会が設けられていますが、普段からも相談にのってもらっていました。具体的ですぐ実践できるアドバイスのおかげで、運営がスムーズにまわるようになりました。

NPOの意義も再確認

2009年には初挑戦となる大規模

イベントを企画しました。その際も、チケットの販売方法や広報のことなどを相談し、アドバイスを受けたことはすべて実践。プレスリリースを作ったり、テレビ番組に生出演したりと、初めてのことばかりでした。結果、500人もの来場があり、イベントは大盛況。まもなく設立10周年を迎えますが「あのイベントを再び」という声も上がっているんですよ。

事務用ブースに入居していた3年間で、組織基盤を整えることができたと同時に、NPOで活動することの意義を改めて確認することができたのではないかと思います。

普段の活動が活かされた時

私たちが養成するリーダーの活躍する場は病院や福祉施設から町内会まで多岐に渡っており、自助・互助・共助・公助それぞれを結びつける役割を担ってきたと言えます。普段の活動の積み重ねがあっ

たからこそ、東日本大震災後すぐに行動できたり、他からの資源をつなぐことができたのではないかと考えています。現在も被災地の仮設住宅を訪問し、健康づくりのお手伝いも続けています。

私たちの活動は、参加する方から「楽しみにしている」という声と笑顔をたくさんいただきます。みんなの笑顔を原動力にこれからも活動を続けていきたいと思っています。



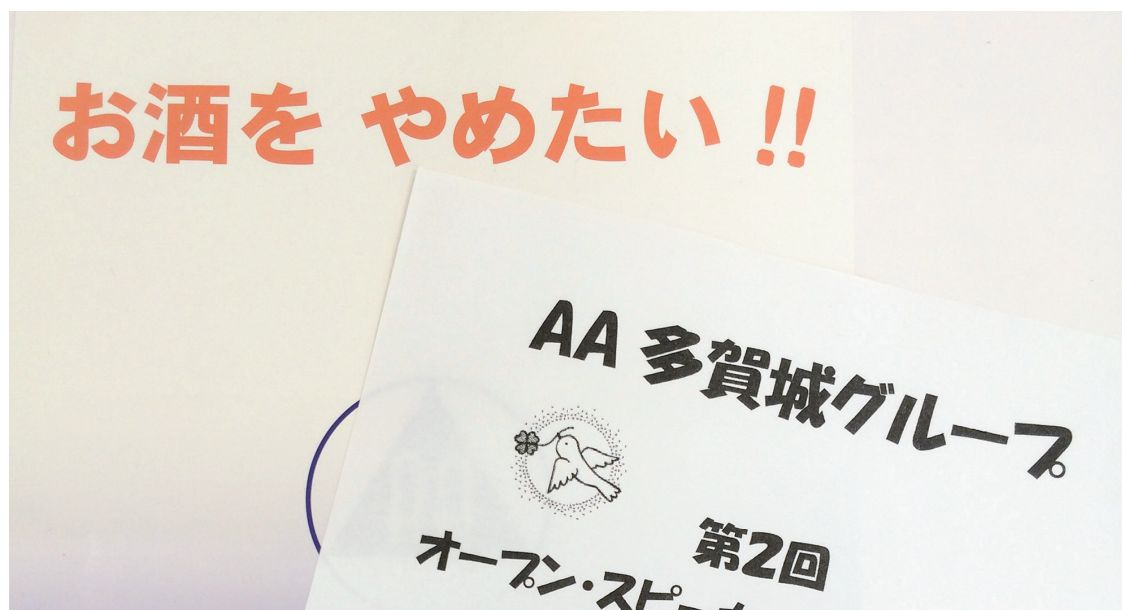
-NPO 法人健康応援
わくわく元気ネット-

松本 厚子さん 赤間 由美さん

TEL : 090-2361-5773

FAX : 022-373-6289

HP : <http://www.wakuwakugenki.net/>



-TITLE-

あり続けること 発信し続けること

AA 多賀城グループ

多賀城はたがさぼから

AA はアルコール依存症に悩んでいる方同士がアルコールを飲まないで生きていくための分かち合いの場づくりをしています。活動は世界中で行われており、多賀城グループもそのひとつです。前身となる仙台港北グループとして活動を始めた 2009 年から、団体名を変え現在まで、たがさぼの会議室を利用してミーティングを開催しています。

ミーティングが行われるのは月曜日の夜。祝日に当たると 17 時閉館になるたがさぼは利用できないため、市内の他施設を使っています。開催場所が変わるのは不便というよりは、さまざまな会場を利用することで AA のことを知ってもらう機会になると考えています。例えば、地区の集会所を利用することで、住民と接することが多い区長さんや民生委員さんに知ってもらうことができるので、その地区で悩みを抱えている方が

解決に向けて一歩踏み出すことにつながればいいなと思っています。

たがさぼを利用して情報発信

ほかの施設とたがさぼが大きくちがうのは、貸会議室だけでなく、地域に情報を発信しているところです。

AA の活動はこれまで 2 回、たがさぼの情報誌に取り上げてもらいました。たがさぼの情報誌は市内をはじめ、県内外の市民活動支援施設にも届けられていると聞きました。アルコール依存症への理解が十分とはいえない中、世間の目を気にして自分の住んでいる地域から離れた場所のグループへ参加する方も多い状況です。だからこそ市外の地域にも情報を届け、知ってもらう必要があります。自分たちでできる広報は限られているので、取り上げてもらえるのはとても心強いです。

同じ悩みでつながる

東日本大震災後、たがさぼを通

して仮設住宅に AA の活動を紹介するチラシを届けました。阪神・淡路大震災で起こった孤独死ではアルコール依存症との関係が指摘されていたためです。また、定例会の他に「オープン・スピーカーズ・ミーティング」という公開イベントを企画し、同じ悩みを持つ人同士がつながるきっかけも提供しています。

活動を始めて 4 年目。参加者は増えています。「月曜日の夜に多賀城でミーティングが行われている」状況をこれからも続けていきたいと思っています。



- AA 東北セントラルオフィス -

TEL・FAX : 022-276-5210
E-mail : aa.tco20@gmail.com
HP : <http://tco.aatohoku.info/>



-TITLE-

仙塩地区に活動を広げるきっかけに

NPO 法人 ミヤギユースセンター | 代表 土佐 昭一郎さん

5年間でのべ300人

ミヤギユースセンターは、高校中退や不登校などで悩んでいる青少年の自立をサポートするために、2001年に設立した団体です。

仙台市内を中心に活動していましたが、たがさばが出来たことで、活動を仙塩地区にも広げることができました。会議室を利用して実施した保護者向けの教育支援セミナーや個別相談会には、5年間でのべ300人の参加があり、そのほとんどが多賀城・塩釜・七ヶ浜在住の方でした。このことがきっかけで、教室に通い始めた生徒が20人以上います。また、仙台的教室へ通うことが難しい多賀城市内の生徒を対象に、学習支援を行ったこともありました。

私達の活動を必要としている地域へ直接出向けるようになったことは、団体にとって大きな変化でした。たがさばは、仙塩地区の方と私達の活動をつなぐ重要な役割を果たしています。

悩んでいる人をつなぐ場に

たがさばはNPOに限らず、自治会・町内会などの地縁組織や、活動を始めたい個人も利用できる施設であることが強みだと感じています。

東日本大震災時、たがさばには支援を行いたい個人や団体、地域の方々が相談に駆けつけたと聞きました。開館当初は、何を行う施設なのか分からないという方が多かったと思いますが、震災時には開館から2年半が経過していました。徐々に地域の中で施設の役割が認識され、上手く機能した証拠だったのではないのでしょうか。

今後たがさばに期待することとしては、新たに立ち上がる団体と、既存の団体の両者を支えられるよう、常に情報発信を続けていってほしいです。団体が活動を持続するためには、利用者の存在が欠かせませんが、利用者を集めることは容易ではありません。

公共施設から発信される情報は信頼度が高く、団体の支援を必要とし

ている方にも安心して受け取ってもらえます。これからも、市民・団体・地域活動を行いたい企業が気軽に利用でき、人と人をつなぐ施設であってほしいですね。



個別指導で自立をサポート



- NPO 法人
ミヤギユースセンター -

土佐 昭一郎さん

TEL・FAX : 022-256-7977
E-mail : miyagi_yc@ybb.ne.jp
HP : <http://www.miyagiyouht.npo-jp.net/>



-TITLE-

同じ地域づくりの拠点としてお互いに高め合いたい

NPO 法人 Azuma-re | 代表理事 千葉 和義さん

悩みや想いの共有

たがさぼとのお付き合いはかれこれ5年くらいになりますね。NPO 法人 Azuma-re が、栗原市からの委託で運営している栗原市市民活動支援センターは2009年1月にオープン。たがさぼがオープンした半年後です。

当センターは市民主体の地域づくりを進める拠点としての役割がありますが、開館当初はスタッフやノウハウも足りず試行錯誤しながら施設を運営することで手いっぱいでした。

その後、各地の支援センターを参考にしようと一関や大崎、仙台などに足を運び話を聞きながら運営の参考にしました。その中の一つにたがさぼがありましたが、正直、最初に訪れた時のことはよく覚えていません。ただ、たがさぼスタッフも数名で栗原までわざわざ足を運んでくれて施設の運営や事業に関する情報交換をしたことで、そこから交流が始まり、外部

の研修などでも一緒にやり合いや悩みを共有しながら今に至っています。積極的に「つながろう」という意識が感じられました。

見据える先はきっと同じ

たがさぼも当センター同様、単なるNPO支援のセンターではなく地域づくり、まちづくりを軸に置いて展開しているという点では同じ方向を目指しているんだなと感じています。

昨年3月にたがさぼで発行した市民活動入門ガイドブック『IPPO』はとても良いなと思い、参考にしセンター便りでも同じような内容を紹介しました。また、おもしろそうな講座は、随時チェックしています。たがさぼスタッフとの交流も深まり、お互いにわからないことを聞いたり、悩みを相談できるような関係性を築けたことは大きいと思います。

これからも同じ地域づくり、まちづくりの拠点として、たがさぼ

には注目しています。今後は、たがさぼも含め同じくらいのまちの規模の中間支援組織のネットワークも広がっていければいいですね。



栗原でさまざまな企画を実施中



- NPO 法人 Azuma-re -
千葉 和義さん

TEL : 0228-22-1905

E-mail : azumare2009@gmail.com

HP : <http://www.azuma-re.net/>



あまり悩まず
相談してみよう！

「自分で何かやってみたい」 「活動のお悩みを解決したい」 地域活動に関する相談ができます



「たがさぼ」は



だれでも



気軽に



ご利用
できます



スタートアップ時

こんなことはありませんか？

活動してから



活動をはじめる第一歩を
踏み出したいとき



活動のお悩みを解決
したいとき



自分で何かやってみたいけど、何
から始めたらいいのかわからない



自分たちの活動を多くの人に知っ
てもらうにはどうしたらいいの？



こんな活動をしたいと考えている
けど、参加できる団体はあるかな



もっと活発にするためには、どん
なことに取り組んだらいいの？

地域活動に関するあれこれにスタッフが相談にのります。

スタッフまで
お気軽に
お声がけ！

開館時間内ならいつでも相談にのります。
スタッフまでお気軽にお声がけください。



スタッフ:さとう

つな がる





- TITLE -

仕事を通して地域を変えていきたい

東北労働金庫 新塩釜支店 | 支店長 北 尚登さん

身近なプラットフォーム

私がろうきん多賀城支店に赴任したのは2008年の3月。たがさばがオープンする3ヵ月前です。異動する前から仕事を通じた地域貢献がしたいという想いがあり、多賀城の現場で実践する機会を与えられたという感じです。たがさばの運営受託者であるせんだい・みやぎNPOセンターとは以前からお付き合いがあり、市民活動のプラットフォームができたことはとても心強く思っていました。

たがさば開館後は積極的に足を運びスタッフと情報交換を重ねながら地域に対して何ができるかを探っていました。仙台・宮城ステーションキャンペーンの一環で、預金していただいたお客様に地元のお店で買い物できる商品券を発行して地域活性化につなげようというのが最初の取り組みです。その後、支店に足を運ぶ方も増えたことから地域の情報を届けようと『地域コミュニティステーション』

』を店内に設置したのが2008年8月。ラックや掲示板を置いて、たがさばに集まる市民活動のチラシやパンフレットを掲示しました。このような取り組みが注目され、メディアにも掲載されました。

つながることで想いを形に

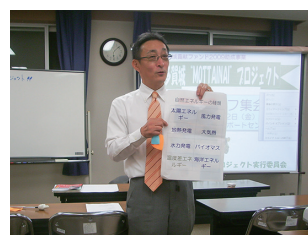
多賀城はコンパクトなので地域のキーパーソンとすぐにつながれるし波及効果も目に見える形でわかるので活動しやすいですね。たがさばはNPOだけでなく町内会の方なども出入りしていて老若男女集まる場となっているのでとても身近に感じています。

町内会や福祉施設を巻き込んだ震災復興植樹プロジェクトやノベルティグッズの開発などいろいろチャレンジできたのもたがさばでの出会いやつながりがきっかけになっている部分があります。それに私だけではなく他の職員にも想いを形にして見せることで地域貢献への理解が深まり、熱心にプロジェ

クトに関わる者も出てきています。

これからもたがさばには地域でいろいろと活動している人たちのつながりの場であってほしいですね。

※ 2012年4月、ろうきん多賀城支店は塩釜支店と統合し、新塩釜支店となりました。



地域の資源をいかしたプロジェクトをしかける



- 東北労働金庫 新塩釜支店 -
北 尚登さん

TEL : 022-364-3115



-TITLE-

誰もが「使いやすい」「入りやすい」場所へ

地域活動支援センター コスモスホール | 高橋 壮さん

地域の情報が集まるたがさぼ

私はコスモスホールが2009年に地域活動支援センターへと変わるタイミングで多賀城にきました。

この頃はたがさぼができてから1年くらいだと思うのですが、情報収集とあいさつを兼ねて訪問しています。その時に探していた情報はコスモスホールの利用者が土・日曜の余暇に参加できる地域イベントでした。

たがさぼには多賀城を中心とした地域の情報が集まっているのを見てから、よく足を運ぶようになりました。また、たがさぼを運営する、せんだい・みやぎNPOセンターを通し、仙台や宮城県内といった、多賀城だけではない情報や、人・団体とつながる機会も得られています。ですので、私にとってたがさぼは「情報を発信してくれる場所」であり、「情報が集まる場所」でもあり、困ったことがあったときに『相談できる心強い場所』でもあります。

地域の人も集まる場

2014年度には施設のリニューアルに伴い、新たな設備も増えと聞いています。そうなればいろいろな人の利用につながると思いますので、ぜひ新しい活動者を発掘し育ててほしいですね。

あと、地域福祉という視点からお話させていただくと「障がいを持つ人でも問題なく利用できる」ことが、地域の人にも使いやすく、誰もが行きやすい場所になるのだと考えています。

そこにあるということ

最後に、これはコスモスホールでも言えることなのですが、利用者は受入れられる場所を用意したからといって、すぐに利用できるわけではありません。長くそこにあることで知られていき、その場所で開催されるイベントに参加するなどのキッカケがあって、はじめて利用につながっていくのだと思います。そのためにも「行ってみよう」「頼りたい」

と思ったときに『そこにある場所』として、たがさぼもぜひ長くあり続けてほしいです。



軽作業や創作活動に取り組んでいます



- 地域活動支援センター
コスモスホール -

高橋 壮さん

住所：多賀城市鶴ヶ谷2丁目15-14
TEL：022-365-1165



- TITLE -

地域の力を仮設住宅へつなぐ

多賀城公園野球場仮設住宅「さざんかの会」 | 代表 伊里山 いさ子さん

たがさぼスタッフがボランティアとして仮設住宅で工作教室を開催しており、そこに参加したのがたがさぼと出会ったきっかけです。そのスタッフは仮設住宅のイベントにもよく顔を出してくれていたで顔見知りになりました。

私は仮設住宅住民同士のつながり

をつくることを目的としたさざんかの会の代表をしています。会の活動として行うパッチワーク教室の先生を探していたところ、たがさぼを利用している団体の中にパッチワークサークルがあることを知りました。そこで、たがさぼスタッフに聞いてみたところ、私たちとつないでくれ

ました。この教室は1年以上続いており、今では教室以外で参加者同士が会った時にも会話するようになり、住民が仲良くなるきっかけになったと思います。

これから災害公営住宅への入居ははじまります。仮設住宅から出ると、今までのように待っていれば支援やイベントが入ってくるというわけではないので、私たちも自分から外に出かけるようにしています。ぜひ今後も地域の中でおもしろそうなことを教えてください。

地域の団体と
つながった
事例

- 多賀城公園野球場仮設住宅
「さざんかの会」 -

伊里山 いさ子さん



- TITLE -

少しでも心の支えに

パッチワークサークル | 熱海 ともしさん

パッチワーク作りの好きな仲間が集って交流を深めようと活動を始めました。

たがさぼとの出会いは、文化センターが使用できなかった際、活動場所として使えるという話を聞いたときです。その後は文化センターとたがさぼを状況に応じて利用しています。

仮設住宅でパッチワークの教室を行うキッカケになったのは、スタッフからの声かけで、すぐに団体内で相談しました。パッチワークサークルのメンバーは多くが多賀城に住んでいます。なかには私をはじめ津波被害に遭った人もいて、仮設で暮らす人達にとって、少しでも心の支え

趣味の活動が
地域に活かされた
事例

につながれば、という想いから引受けました。私たちが仮設住宅の教室に関わったのが2013年初頭です。からもう1年以上続いています。毎月1回の開催ですが、参加される皆さんの上達やアイディアは私たちにもよい刺激になっています。

これから災害公営住宅の入居なども始まり、仮設住民の方々にも様々な変化があると思いますが、私たちができる支援を続けていきたいと考えています。



- パッチワークサークル -
熱海 ともしさん

活動場所へ直接お越しください
活動日：毎月第2・第4金曜日 9:30～11:30
場 所：多賀城市市民活動サポートセンター
または多賀城市文化センター



-TITLE-

行政との橋渡しが被災者支援につながった

被災者を NPO とつないで支える合同プロジェクト | 現地本部長 (当時) 佐野 哲史さん

ニーズをすくいあげる

被災者を NPO とつないで支える合同プロジェクト (以下、つなプロ) は、震災直後に、関西・関東・宮城の NPO が連携して立ち上げた被災者支援の組織です。「避難所でこれ以上の死者、状況が悪化する方を出さない」ことを目的に、避難所で見落とされてしまう「高齢者」「子ども」「障がい者」「外国人」「病人」「アレルギー保持者」など、特別なケアを必要とする人たちのニーズをすくいあげ、専門的に対応できる NPO とつなぐ活動です。

そのためには一刻も早く、被災した自治体の避難所に入り、被災した方たちへの調査活動を行いながら、潜在化するニーズを見つけしていくことが求められました。しかし、避難所へ調査に入ることは、そこを管理する自治体の許可を得ないとできないため、活動開始時の大きな壁となって立ちはだかりました。

連携によって救えた命

たがさぼは、つなプロの設立時に大きく関わったせんだい・みやぎ NPO センターが管理運営する公共施設でしたので、多賀城での調査は、たがさぼを通して市の協力を得ることができました。結果、当時避難所であった文化センター、体育館、山王地区公民館、史遊館への調査を行い、特別なケアを必要とする方たちを専門的に対応できる支援へとつなげることができました。

多賀城での実績は大きく、行政と連携して被災者支援につなげたことが、他の自治体での調査にも大きく影響しました。

もっともっと地域の中に

多賀城は自治会・町内会、子供会などの地縁組織の活動が多く、住民同士のコミュニティをつくってきた地域ですので、たがさぼには、地縁組織が活動する現場に積極的に入ってもらい、多賀城を盛

り上げていってもらいたいです。

地域には必ずキーパーソンとなる人がいるので、たがさぼの機能や活用方法をどんどん PR し、利用につなげたら多賀城の地域は絶対におもしろくなるはずです。何か困ったら「たがさぼに行ってみよう!」と、みんなから思われる施設になってもらいたいですね。



-被災者を NPO とつないで支える合同プロジェクト-

現地本部長 (当時) 佐野 哲史さん

E-mail : tp.jimukyoku@gmail.com
HP : <http://www.voluntary.jp/portal/tsunapro/portal.index>



-TITLE-

「想い」を「カタチ」にする応援

利府町西部児童館「りふ〜る」 | 館長 高橋 和恵さん

市民活動にふれる場

私は子育て支援団体のスタッフとして、たがさぼと同じくせんだい・みやぎNPOセンターが運営する、仙台市民活動サポートセンターを利用していました。当時は利用者が少なく、ほとんどの方が「市民活動って何？」という感じでした。ただ、私たちの活動でいらしたお母さんたちが、サポートセンターに置いてある市民活動関係のチラシやパンフレットを持っていったりして、これまで市民活動に関わりなかった方がそういったものにふれる機会になったと思います。

その後、たがさぼが出来た時には私は仙台の鶴巻児童館の館長をしていたのですが、当時のたがさぼセンター長と多賀城市の担当職員の方があいさつにられました。市職員の方もとても熱心で、二市三町（多賀城市・塩釜市・利府町・七ヶ浜町・松島町）にも仙台のように地域の問題に向き合う市民活動の場ができることを頼もしく思いました。

二市三町の活動を応援

私が直接たがさぼを活用することはあまりないのですが、何かしたいと思っている方、地域を知りたいと思っている方が利府町西部児童館にいらした時にはたがさぼをご紹介することがよくあります。さまざまな想いを持っている方が二市三町にもいるのですが、それを形にしてくれる施設はなかなかありませんでした。

そんな時、たがさぼが出来て、団体やイベントなどの情報が集まり、市民活動にふれるきっかけとなる場所があるのはありがたいです。私（児童館）だけで全て解決することは出来ませんからね。また、違う分野の活動をしていた人たちや似てる活動だけでも出会って来なかった人たちがつながる場所としても、二市三町の市民活動の推進に大きな役割を果たしてくれたと思います。

行政だけでは解決できない問題は、市民も一緒に考えなければい

けません。まだ二市三町は市民活動が活発とは言えませんが、たがさぼには、市民が問題に気づく場、多様な問題意識を持った人の背中をそっと押してくれるセンターでいてほしいと思います。



地域で子どもを育む取り組み



- 利府町西部児童館「りふ〜る」-

高橋 和恵さん

TEL : 022-781-9895

E-mail : rifuuru@yahoo.co.jp

ブログ : <http://rifuuru.blog.fc2.com/>



親子で参加できる
イベントもあったのしいね！

イベントに参加して さまざまな人や情報に 出会うことができます



活動している方のお話をきいたり



仲間に出会えたり



新しい発見があるかも



アイデアをわいわい出し合ったり



すぐに役立つノウハウが学べたり



いろいろな体験もできます

活動している方のお話を聞いたり体験するイベント、活動に役立つノウハウが得られる講座など、年間を通してさまざまな催しを行っています。参加すると仲間に出会えたり、アイデアやヒントがもらえたり、新たな発見があるはず。たがさぼ主催のイベント情報はホームページやブログ（たがさぼ Press）をご確認ください。

【ホームページ】<http://www.tagasapo.org/>
【たがさぼ Press】<http://blog.canpan.info/tagasapo/>



ケータイ・スマホからも
ご覧いただけます。



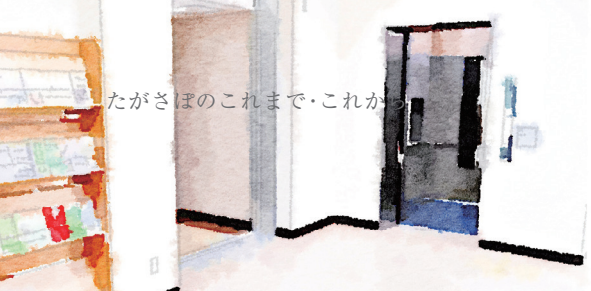
たがさぼスタッフ一同



講座への参加をきっかけに、活動に一步踏み出したり、仲間を見つけたりしている方もいらっしゃいます。ぜひご参加ください。



スタッフ: あべ



たがさぼのこれまで・これから

丘の上のたがさぼ



JR仙石線多賀城駅から多賀城市役所に向かい、さらに多賀城市文化センターへと続く緩やかな上り道のその先の小高い丘の上に、多賀城市市民活動サポートセンターはあります。

“たがさぼは丘の上にあります”というキャッチフレーズは、市民活動の拠点であるこの施設が、“丘の上”という言葉から連想するような「爽やかな風が吹き寄せ、明るく開放感のある場所」として、いつでも市民の皆さんに親しまれ、より多くの方々に来ていただけるように名づけたものです。

そのたがさぼも平成25年6月1日で開館5周年を迎えました。

これまでの間に「だれかのために役に立ちたい」「助け合い・支え合いの地域社会をつくっていききたい」「自分達のまちだから自分達でよくしたい」と活動する皆さんに多数のご利用をいただき、その延べ人数は約12万人にも上ります。

開館以来変わらぬ「たがさぼのミッション」は、多賀城のまちづくりや地域づくりを担う皆さんの支援です。そのため、たがさぼでは、地域社会の課題解決のために考え行動する市民活動団体（NPO）の皆さん、地元地区の自治活動を担っている町内会や自治会の方々、そして、自分達の学びを地域に開くことで地域づくりに貢献している生涯学習団体の皆さんのチカラになるべく、様々な工夫を凝らした支援を行っています。

実は、このような形で、地域づくりに関わる全ての方々を支援対象としている市民活動支援施設は、全国でもあまり例がありません。たがさぼが他に誇る最大の特色です。

たがさぼでは、より良い地域社会づくりに関わる方々のために、その思いをカタチにしていくサポートを個々に行っていますが、自分一人では、あるいは個々の団体だけではできないことがたくさんありますから、たがさぼ最大の特色でもある「様々な分野で活動する団体の支援」を通じ、それぞれのコミュニケーションの回路を増やし、それらがパッチワークのように繋がるコミュニティづくりのサポートをこれからも続けていきます。

震災経験を経て、地域コミュニティの大切さを改めて強く感じる事ができた今だからこそ、皆さんとともにしっかりと取り組んでいきたいと思えます。



さて、開館5周年を迎えた“たがさぼ”ですが、この度、約1年にも渡る改修工事を終え、装いも新たにリニューアル・オープンしました。エレベーターを新設し、交流スペースの増設や使い勝手の良い会議室への改修、更には、空調設備やトイレも新調し、より利用しやすく、居心地の良い施設に生まれ変わりました。ぜひ“丘の上のたがさぼ”にいらしてください。地域のために頑張っている皆さんのチカラになりたいと心から願うスタッフがお待ちしております。

多賀城市総務部地域コミュニティ課 課長
多賀城市市民活動サポートセンター 所長
小野史典



みんなで 地域づくりの種をまき 地域づくりの芽を育む

-たがさぼが丘の上に誕生して5年と10か月の時が経ちました-

「市民活動?」「何をサポートしてくれるの?」「聞いたことがない」「そもそもどこにあるの?」など開館当初は利用者も私たちスタッフも戸惑いながら運営を続けてきましたが、今ではNPO、生涯学習団体、自治会・町内会、企業、学生、行政など各セクターから人が集い、出会い、語り、つながり、地域への想いをじっくりと育む場所になりつつあります。たがさぼはいろいろな資源(人・モノ・カネ・情報)を有効に活用して、地域にある課題を解決、「困った」を「よかった」にするため、そして、市民発の創造的なアイデアによって地域に新たな価値と魅力を生み出すために存在しています。それらを実現するためにたがさぼもまた人と出会い、語り、新たなつながりをつくり、地域の声に耳を傾けていっしょになって地域づくりに取り組んできました。

-東日本大震災が地域の課題を浮き彫りにしました-

さらに、これからは人口の減少とともに超少子化、超高齢化がますます加速します。私たちには新しい生き方、暮らし方が必要です。そのために地域に住む一人一人が当事者となりそれぞれの想いが連鎖し輪郭が現れ具体的なアクションにつなげていくことが大切です。

今回、この冊子で紹介させていただいた素晴らしい取り組みの数々は、多賀城の地域づくりの芽です。みんなでいっしょに大事な芽を育てつつ、また新しい種をまき新しい芽を育てるためにたがさぼもその一員としてこれからも地域づくりのお役に立ちたいと思います。

多賀城市市民活動サポートセンター
センター長
桃生和成



多賀城市市民活動サポートセンター（たがさぽ）

〒985-0873

宮城県多賀城市中央 2-25-3

TEL：022-368-7745

FAX：022-309-3706

URL：http://www.tagasapo.org/

ブログ：http://blog.canpan.info/tagasapo/

Twitter：@tagasapo

発行：多賀城市

編集：NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター

2014年3月発行

